

座 長 川並 高雄 (金工大)

副座長 高橋 洋一 (神鋼)

4. 気相めっき討論会

総合司会 三吉 康彦 (新日鉄)

5. TMCP の特殊鋼および高炭素鋼への適用

座 長 志賀 千晃 (川鉄)

副座長 勝亦 正昭 (神鋼)

懇親会

懇親会は9月29日午後6時より京王プラザホテル札幌で日本金属学会と合同で開催された。

二川哲雄副実行委員長(新日本製鉄(株)室蘭製鉄所副所長)の司会により、高橋実行委員長、八木本会会長、堂山金属学会会長、佐藤北大工学部長挨拶の後、大西敬三副実行委員長((株)日本製鋼所室蘭製作所副所長)の乾杯で始められた。

参加者は360名ほどで秋の庭に懇談が行われた。最

後に菅原英夫副実行委員長(室蘭工業大学教授)の万才三唱で散会した。

ジュニアパーティー

9月30日午後6時より札幌の繁華街にある羊々亭にて開催された。多数の参加者があったが、会場の都合で定員270名で打ち切られたため、参加できない人がでた。

参加者はジンギスカン鍋など北海道の味を堪能しながら懇談が行われた。

欠講

今秋の大会において次の講演が欠講された。

1. No. 514 樹脂充填高力ボルト接合部に関する実験的研究(せん断型引張実験-1) 新日鉄 宇野 暢芳他
2. No. 679 ラインパイプ鋼の強度・靱性バランスに及ぼす熱間圧延の影響 新日鉄 飯野 牧夫
3. No. 751 熱調質に代わる炭素鋼製大形部品の熱水焼入れ 中国湘潭大学 譚 玉華 他

コ ラ ム

論文の考察って何?

テレビの番組で“こんなモノいらない“というのがありますが、論文の考察について考えてみませんか。

考察についてちょっと考えてみただけで次のような愚問が浮かんできます。

- 考察は、何のためにあるのか。
- 考察は、いつの頃に論文に現れたのか。
- 考察は、著名な論文に必ず付いているか。
- 考察は、Letters to editor に付いていないのか。
- 考察は、発明、発見には付いていないのか。
- 論文に考察がなかったら……とか。

このようなことを暇にまかせて考えていましたところ、では一体、考察が論文の中に占める割合が知りたくなりました。そこで、金属関係の代表例として我が“鉄と鋼”と“Metallurgical Transactions A”の今年の6月号の論文について調べてみました。表題、アブストラクトを除いて本文に占める考察の面積の概算をしてみました。実験結果と考察が一緒になっているものについては、それぞれに折半しました。結果として

“鉄と鋼”では最少は19%で最大66%，“Metallurgical Transactions A”では、それぞれ、21%と72%でした。平均では、前者は、およそ40%、後者は45%でした。あえて独善的な結論を申し上げると、論文から考察を省けば、本の厚さは4割減あるいは4割プラスの論文が掲載できます。または査読時間が短縮され、早期出版が望めます。乱暴な話であることを承知の上で一石を投じましたが、下記のような議論もあることを参考に加えておきます。

“あらゆる科学論文が同一の様式であるのは、普遍的な科学的方法から発しているように見えるが、実は科学論文に流布している誤った一致によるものである。もし科学者がその実験や理論をごく自然に表現することが許されるなら、唯一の普遍的な科学的方法という神話はたちどころに消え失せてしまうであろう。”(背信の科学者たち [ブロード、ウェード著/牧野賢治訳, 化学同人])

結論、このような駄論を展開させるような論文がないことを期待します。

(金属材料技術研究所 石川圭介)